

めざせ『ゆめみづほ』収量アップ！

～10a あたり収量コシ+60 kgを目指し、コシヒカリ以上の収益確保を!!～

—白山石川営農推進協議会—

—うまい・きれい石川米づくり運動推進本部委員会・石川県米麦改良協会—

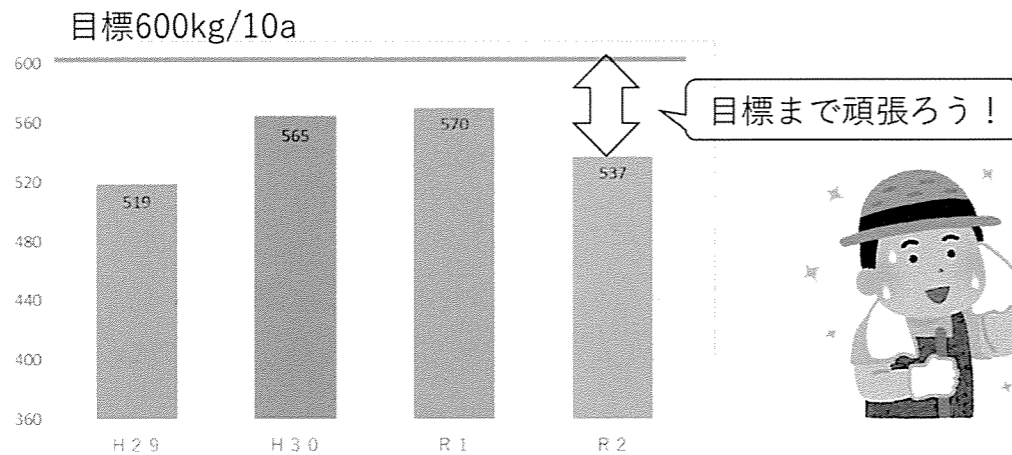
<3つのポイント>

- 上乗せ追肥が恒常化している場合には、上乗せ追肥分の窒素が含まれる「早生一発くんDX28」への切り替えを
- 適切な水管理（田植え後の浅水管理、田植え1ヶ月後の中干しと、中干し後の飽水管理）でバランスの良い穂の姿へ誘導
- 収穫後はケイ酸分などを含んだ資材（松任ケイサンプラスやひやくまん馬力等）で土作りを実施し、地力を維持・向上

高いニーズがある「ゆめみづほ」 今、収量向上が求められています！

- 『ゆめみづほ』は、多様なニーズに対応可能な良食味米として作付が拡大され、現在、白山石川地区の稲作付面積の約2割を占めています。近年は、需要がさらに高まり、生産拡大が求められています。
- 食味や品質は高く安定していますが、収量は目標600kg/10aに届いておらず、ゆめみづほの品種特性を十分発揮しきれていない状況です。
- 収量が向上すれば、コシヒカリ以上の利益確保も期待できます！！

<ゆめみづほの収量推移 (H29～R2)>



<10a 当たりの収支試算>

収量：コシヒカリ 540kg/10a
 ゆめみづほ **600**kg/10a
 仮渡金：コシヒカリ 13,000円
 ゆめみづほ 11,800円

	コシヒカリ	ゆめみづほ
収入	117,000	118,000
肥料費 (DX一発肥料)	7,491	7,938
収支 (収入-肥料費)	109,509	110,062
コシヒカリとの差		プラス 553

だった場合 → ゆめみづほでも、コシヒカリ同等以上の利益を確保できます♪

見直そう！収量構成要素！！



どんな稲の姿を目指す？

○ゆめみづほ目標収量構成要素

重要！

	収量 (kg/10a)	穂数 (本/m ²)	一穂粒数 (粒/穂)	m ² あたり粒数 (粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)
目標	600	455	67	30,500	85	23.0

生育過剰による粒数の過剰は登熟不良を招き減収の原因になります

⇒『適正粒数』と『登熟向上』を意識した栽培管理で収量向上をめざしましょう！

管内S法人の収量確保事例(松任地区)

570kg/10a(令和2年産 共乾実績)

<作業の流れ>

- 土づくり 11/4 (ひやくまん馬力60kg/10a)
- 田植え 4/30 (早生一発くんDX28 50kg/10a)
- 中干し 6/2
- 溝切り 6/3
- 間断通水
- 収穫 8/25

<Y法人での留意点>

乾田地帯であることを考慮して、**ケイ酸**を含む資材を用いて土作りを実施

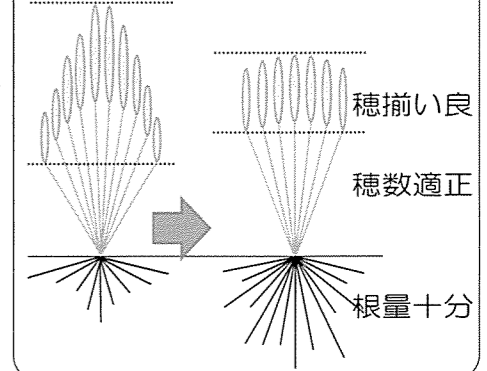
近年上乗せ追肥の実施が増えていることから、**基肥はDX肥料**を導入

中干しは遅れず実施 (遅発の茎を増やさない) 溝切りを実施することで、長梅雨であっても速やかに排水が可能。

通水はほ場の固さを考慮しながらできるだけ**収穫直前**まで実施(刈取5日前を目安に計画)



【目指す稲姿】



<石川農林総合事務所の分析>

中干しや収穫直前までの間断通水等、適切な水管理によって生育をコントロールして健全な稲体を作っていることが収量確保のポイント。これにより、不足しているケイ酸分の補給や、上乗せ追肥の必要性を考慮したDX肥料の投入もねらい通り有効に働いたと考えられる。